

やあ、ここにいたんだ

OWCC 中川和道 20230720

中川はJR生瀬駅の近くに2005年に引っ越してきた。駅の南側にある六甲山にむかって住宅地は今でもじりじりと登高拡張を続けており、生瀬高台第1公園の標高200mなどほとんど登山の高さだ。武庫川の北側には有名な旧福知山線廃線敷があり、その東並びの三等三角点257.7mの脇には長尾山霊園が広がる。青葉台第3公園は標高150mにあり、武庫川の川面から公園に、さらに霊園まで歩くのは登山そのものである。標高200mから毎日大阪神戸への通勤することが実に大変であることを、引っ越し18年目にしてあらためて思い直した。

身の回りの絶景、新しい宇宙で出会った生き物たちについて、2020年5月に書いたエッセイを今年発見した。「やあ、君がいたのは、ここだったんだ」という、小さな気づきのものがたりだ。



タラノキ 2014年、公園近くの道路でコンクリート舗装の継ぎ目に懸命に生えていた。6月の町内草刈りで刈られる直前、ポッカトレの途中に気づき、自宅の庭に引き取った。動機は下心満載だ。早春に新芽のてんぷらをと考えただけでよだれが出たからだ。当時は身長10cm。

ところが、かわいさが募り、情が移って、さっぱり食べられない。初級アルパイン・リーダー学校で思わず話したら「何だ、それは」とみんなから大笑いを喰らった。

毎年春にこの大笑いを重ね、今年2020年には身長180cm。左右の新芽の右側をやっと食べた（写真は残した左の若芽）。娘たちに「6年ものやね」とからかわれた。公園の親木はすでに伐採され、この子たちだけが残っている。今年は、近所の荒地に、種をまきに行こう。蓬萊峡がいいかな？

このタラノキ、今年2023、ついに伐採となった。子孫の繁栄を祈りたい。

ススキ 5月連休の晴れ間は湿度が極端なまでに低い。ススキの枯れ穂がきれいに丸まっていくのはこの時期だ。まるで、ススキが乾燥注意報を発令しているみたいだ。小さな子どもを連れただご家族連れ。「おや、きれいですね」と言って写真撮影中の中川と会話がはずむ。そう、ススキくん、ここにいたんだよね・・・



鳥の巣 春に巣を新調する小鳥は多い。生瀬高台公園のやぶの中の地面で役目を終えたこの巣を見つけた。都市化の影響がどこまで来ているかがまず気になった。枯草に混じってまだ緑色のコケがあるから、昨年の巣だ。ビニタイ、縫い糸、ビニール線、電気配線など人工物はいっさい使われていない。生瀬の自然はまだ健全らしい、と、ホッとした。